

# 日本の学童ほいく

みんなで読もう  
目標  
3万8000部

全国学童保育連絡協議会

子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。みんなで読んで、語って、楽しみながら、よりよい学童保育をつくっていきましょう。

## 普及拡大 ニュース

元気になる  
みんなの取り組みを  
ご紹介

2021年9月3日

\*\*\*\*\*

### 地域での普及拡大の取り組み

#### 『日本の学童ほいく』普及拡大を実現するための岩手の具体的な体制と戦略！

岩手  
の  
取り組み

『日本の学童ほいく』の普及拡大を図るためには、「魅力を語る」「活用する」と同時に、具体的な拡大の作戦（計画）を持ち、かつ、着実に実践していく、意識的な追求が必要と考えます。

- (1) 体制 県連協の役員会内に、「ほいく誌プロジェクト」を設置して、活用と拡大について議論し、実践しています。市連協のなかでも「ほいく誌」部を設置し取り組んでいる地区もあります。
- (2) 戦略 ①『日本の学童ほいく』の普及拡大を、活動方針とし、「第1段階 指導員は全員購読」、「第2段階 役員は可能な限り全員購読」、「第3段階 可能な限り全世帯購読」、「第4段階 行政関係者、議員への購読を働きかけ」。② 上記の指針を前提に、山形県連協の事例に学び、「年度内に最低限各クラブが1部増やす」ことを目標に、どの学童保育でもできそうな目標を提示することで拡大を進めています。③ この取り組みは、特に年度が切り替わる時期が大切です。

#### 全世帯購読の意味を保護者とともに確認しあうことの大切さ！

埼玉県  
日高市  
の  
取り組み

『日本の学童ほいく』をなぜ購読する必要があるのか？。日高市連協の総会時にそんな質問がありました。そこで私たちは、2020年度からあらためて、全世帯購読の意味を市連協のなかで保護者とともに話しあってきました。ほいく誌が子育てや保育のヒントになることはもちろんですが、全国連協・県連協の運動の支えになっていることも話しあいました。「全国連協って何？」「県連協って何？」。現役の保護者の方々にも理解されるように、一つひとつ確認しあってきました。「あって当たり前」の学童保育には保護者と指導員が改善に向けて取り組んできた歴史があります、その運動には連絡協議会としての取り組みや運動のつながりが欠かせないことも話しあいました。

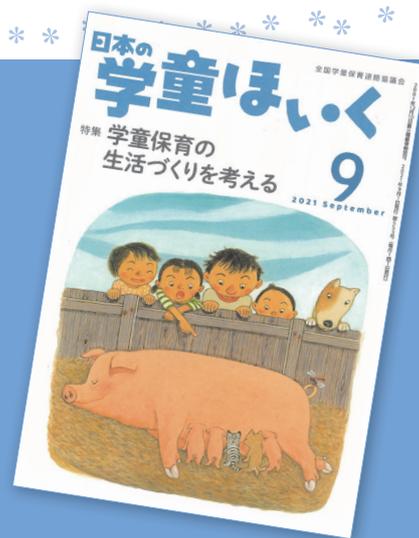
また、指導員会では、保護者や子どもがほいく誌に興味を持てるように『僕のほいく誌アカデミア』というニュースを発行しています。おやつレシピや遊びの記事の紹介を載せ、ほいく誌は子どもも楽しく読めることを意識して伝えるようにしています。

\*\*\*\*\*

## 日本の学童ほいく 9月号

### 特集 学童保育の 生活づくりを考える

今回の特集では、1年以上にわたるコロナ禍における学童保育の生活づくりのなかで感じてきたこと、気づいたこともふまえて、これまで私たちが大切にしてきた、子ども・保護者と指導員が共に行う学童保育の「生活づくり」について、あらためて、たしかめあいます。



# 日本の学童ほいく

みんなで読もう目標 3万8000部

子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。

# 普及拡大 ニュース

2021年9月3日



## 読者の声

### 北海道札幌市 ● 保護者から

2021年5月号「おもいで絵日記」に掲載された「あぁ～!？」を読んで、わが家の「キャベツ事件」を思い出しました。私が幼いことに住んでいた地域は、近所にスーパーはなく、野菜は八百屋さんで購入していました。いつもは母と一緒に買い物に行っていたのですが、ある日、妹と私がおつかいを頼まれたのです。キャベツと玉ねぎを頼まれ、いつもの八百屋さんへ行くとお休み。別の八百屋さんで買って帰ると、「玉ねぎはあっているけど、これはキャベツじゃない。レタスだよ」と母。はじめて行った八百屋のおじさんに話しかけることができず、まちがって手に取ったものを購入してきたのです。トンカツには、やはりキャベツの千切り。おつかいのリベンジです。同じお店に行くのが恥ずかしくて、さらに遠くの八百屋さんへ。がんばってお店の人に声をかけて、無事に買うことができました。重いキャベツを手に、疲れている妹を上げましながら帰ったこと、母に「ありがとう」と言われたときのせつなく、うれしく、ホッとした気持ち。思い返せばあのときは、私も母も「あぁ～!？」でした。（『日本の学童ほいく』2021年8月号「読者のひろば」より）

### 神奈川県横浜市 ● 保護者から

2021年2月号の「出会い集い父母会」に菅原幸子さんが書かれた「二年間をふり返り、いま願うこと」を読みました。私も保護者会の役員を担ったり、市の学童保育連絡協議会の活動に参加した経験があります。「少々大変かな」と思う部分もありましたが、菅原さんも書かれていたように、多くの方とお会いして関わる機会を持てたことで、自分自身の視野が広がったように思います。

2020年度は、コロナ禍の影響でイベントや会合がほぼ中止になってしまい、非常に残念です。1日も早く、再びみんなでワイワイと盛りあがるようになってほしいものです。私の“学童ライフ”も残り2年ほどとなりましたが悔いなく過ごせるようがんばりたいと思います。（『日本の学童ほいく』2021年6月号「読者のひろば」より）



私が初めて『日本の学童ほいく』を手にしたのは25年以上前。岡山県津山市には当時、学童保育が6つあり（現在は27クラブ41支援の単位）、市の巡回指導員が計画してくれる毎月の研修や交流を行っていました。そんななか、「県外だけ研修に行かないか」と担当課の方に誘われ、参加したのが「全国学童保育指導員学校・西日本会場」でした。当日の全国連協の役員や地元の指導員たちの活気あるあいさつは感動的で、一人ぼっちで仕事をしている感、が一瞬で吹き飛びましたし、「こんなにたくさんの指導員がいるんだ」と思うと元気が出ました。そのときから、『日本の学童ほいく』を定期購読することにしたのです。

それ以来、毎月毎月、全国各地の保護者と指導員が綴る実践が私を励まし、専門家の方々の言葉が学びとなり、日々の仕事を支えてくれています。十数年前になりますが、本誌の編集委員となり、東京で開催された編集会議に参加し、はじめて特集の企画書を書いたときのことを、いまでもはっきりおぼえています。本誌は、指導員と保護者、編集部も含めてたくさんの人々が議論を重ねてつくられています。ぜひ手に取って読んでほしい月刊誌です。日々の悩みや疑問が解消される糸口になる記事に出会えると思います。なぜならば、どこでも起きている、学童保育の生活がここには綴られているからです。長年、購読しつづけている私から、是非おすすめしたい読み方があります。それは、「特集テーマごとに数年分をまとめて読むこと」。とてもおもしろい発見があることまちがいなさだと思えます。

私と「ほいく誌」

全国連協役員リレー執筆・今月は岡山県の角野いずみさん